

高等学校の歴史教科書用語と歴史系大学入試の出題用語に関する調査へのご協力をお願い

2017（平成29）年11月  
高大連携歴史教育研究会運営委員会

関係各位

私ども、高大連携歴史教育研究会は、2015（平成27）年夏に大学と高等学校の歴史系教員を中心に発足した研究会で、現在、全国から400名ほどの会員が参加しているものです。

ご承知のように、現在、文部科学省では2022（平成34）年から使用する高等学校の教科書において小中高のすべての科目で「主体的で対話的な深い学び（アクティブラーニング）」の導入をめざしています。ところが、高等学校の歴史教育では、従来、教科書に収録した用語の暗記中心の教育が行われることが多かった上、教科書の収録用語が改定の度に増大し、古代から始めた授業が近現代まで到達せずに終わることが多くみられました。

その上、大学入試では、一部に思考力・表現力を問う記述式などの出題が増えてきたものの、多くの大学では依然として用語の暗記力を問う問題が出題され続けています。

このような現状の改善なしには、歴史的な思考力を育成する授業を大幅に増やすことは難しいと思われまます。そこで、私どもの研究会では、日本学術会議高校歴史教育分科会や日本歴史学協会歴史教育特別委員会とご一緒に、高等学校の歴史教科書と大学入試の歴史系の出題用語に関連した用語精選基準に関するアンケート調査を実施することにしました。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

また、私どもの研究会では、独自に世界史Bと日本史B教科書に収録する用語の精選第1次案を作成しました。それは、過剰になっている用語精選の議論が具体的な形で進むきっかけになることを願ってのものであります。今後、来年2月末までに上記のアンケート調査を行い、その結果に基づいて用語精選の最終案の作成に進みたいと考えております。それ故、この用語精選第1次案に対するご意見もお寄せくださるようお願い申し上げます。

ご返事は、3者によるアンケート調査も、高大連携歴史教育研究会独自の用語精選第1次案に対するものもどちらも、下記にお送りくださるようお願い申し上げます。

郵送の場合は、〒612-8522 京都府京都市伏見区深草藤森1  
京都教育大学教育学部日本史研究室気付  
高大連携歴史教育研究会事務局

また、高大連携歴史教育研究会のホームページ (<http://www.kodairen.u-ryukyu.ac.jp>)でも、アンケートの回答を行うことができます。合わせて用語精選第1次案への意見欄も設けられておりますので、そちらにもご意見をお寄せください。

## 高等学校歴史教科書・大学入試出題用語精選基準に関する アンケート調査のお願い

2017（平成29）年11月

日本学術会議史学委員会高校歴史教育に関する分科会  
日本歴史学協会歴史教育特別委員会  
高大連携歴史教育研究会運営委員会

関係各位

高等学校の歴史教育では、古代から始めた授業が現代まで到達せずに終わったり、生徒が歴史を「暗記科目」と捉えて、歴史を学ぶ楽しさを実感したり、歴史的思考力を磨く機会を持つことが難しくなっているといわれています。その原因の一つは高等学校の歴史教科書に収録されている用語が改定の度に増大してきたことが影響していると指摘されています。また、大学入試で細かい用語の暗記力を問うような問題が出されると、その用語が次の改訂で教科書に収録される形で、大学入試も教科書用語の膨張に影響を及ぼしてきました。

もとより、この用語問題の解決には、用語精選に関する基準に関して高等学校の歴史教育や大学入試の歴史系出題に関わる広汎な皆様のご意見を集約する必要があると考えています。そこで、私ども、日本学術会議史学委員会高校歴史教育に関する分科会、日本歴史学協会歴史教育特別委員会、高大連携歴史教育研究会（2015（平成27）年発足、現在会員数400名）運営委員会では、高等学校の世界史B・日本史B教科書と大学入試出題における用語の精選基準に関するアンケート調査を実施することになりました。

このアンケートに対して2018（平成30）年2月末日までに回答をお寄せいただきたく、お願い申し上げます。なお、ご回答にあたっては、貴会としてのお答えか、個人のお答えかを明示くださるようお願い申し上げます。

### アンケート

注）ご回答にあたっては、次の五段階、（5）強く思う、（4）そう思う、（3）どちらともいえない、（2）そう思わない、（1）全く思わない、のいずれかに該当する数字を○で囲んでください。また、その他の自由回答欄にはスペースの範囲内でご意見を自由にお書きください。

I. ご回答のお立場 a) 会としての意見 b) 個人としての意見

II. 記入者のご氏名 ( )

III. 記入者の特性（複数選択可） 大学教員（元も含む）、高等学校教員（元も含む）、教科書執筆者、教科書編集者、大学入試関係者、その他 ( )

IV. 高等学校の歴史系教科書に収録されている用語が改定の度に増大している傾向についてどうお考えですか、

i) 歴史研究の進展の結果として当然 → 5 4 3 2 1

- i. 9割以上 (世 1922 語、日 2294 語)
- ii. 8割以上 (世 2577 語、日 3030 語)
- iii. 7割以上 (世 3132 語、日 3709 語)、iv. 6割以上 (世 3661 語、日 4349 語)
- v. 5割以上 (世 4101 語、日 4941 語)

その他 ( )

- iii) 高等学校の歴史教科書においては、時代の大きな流れを説明する概念用語と、特定の時期に起こった事件やそれに関連する人名・地名を表す事実用語を区別し、概念用語を中心としてその説明に必要な事実用語を必要な範囲で精選する。

→ 5 4 3 2 1

その他 ( )

- iv) 用語の膨張傾向を生み出す要因の一つとして文化史における作家と作品の名前が羅列されている状況があるので、文化史に関してはそれぞれの時代を代表する作家や作品に限定した上で、その作家や作品の特徴をきちんと説明する形で収録する。

→ 5 4 3 2 1

その他 ( )

- v) その他の基準があれば、記入してください。

( )

**IX. 歴史系用語の精選を行う場合、高等学校歴史教科書の収録用語と大学入試の出題用語の精選のどちらを先行させるべきとお考えですか。**

- i) 高等学校歴史教科書、 ii) 大学入試出題用語、 iii) 両方同時

その他 ( )

**X. その他、ご自由にご意見をお寄せください。**

ご返事は、下記にお送りくださるようお願い申し上げます。

〒612-8522 京都府京都市伏見区深草藤森1 京都教育大学教育学部

日本史研究室気付 高大連携歴史教育研究会

また、高大連携歴史教育研究会のホームページ (<http://www.kodairen.u-ryukyu.ac.jp>)  
でもアンケートの回答を行うことができます。

なお、このアンケートに含まれる個人情報アンケート集約以外には使用いたしません。

ii) 高等学校での授業時間の制約を考え、用語の精選が必要 → 5 4 3 2 1

iii) その他 ( )

V. IV-ii で用語の精選が必要(5段階評価で5か4を選択)と回答された方にお尋ねします。高等学校の世界史Bと日本史B(いずれも4単位)における適当な用語数は次のどれとお考えですか。

なお1950年代の世界史、日本史教科書の収録用語数は1500語前後であったが、2014年度の教科書では世界史B、日本史Bとも3400-3800語になっています。

・世界史B i) 3000語程度、ii) 2500語程度、iii) 2000語程度、iv) 1500語程度、v) 1000語程度

・日本史B i) 3000語程度、ii) 2500語程度、iii) 2000語程度、iv) 1500語程度、v) 1000語程度

・その他 ( )

VI. 大学入試で出題する用語数を限定する必要があるとお考えですか。

→ 5 4 3 2 1

・その他 ( )

VII. VIで出題用語の精選が必要(5段階で5、4を選択)と回答された方にお尋ねします。大学入試で限定すべき用語数は次のどれとお考えですか。

・世界史B i) 3000語程度、ii) 2500語程度、iii) 2000語程度、iv) 1500語程度、v) 1000語程度

・日本史B i) 3000語程度、ii) 2500語程度、iii) 2000語程度、iv) 1500語程度、v) 1000語程度

・その他 ( )

VIII. 用語の精選を行う場合の次の基準についてどうお考えでしょうか。

i) 大学入試の出題用語は、高等学校の歴史系授業で十分説明する時間がないと思われる注や資料にでてくる用語は除外し、教科書の本文に掲載されている用語に限定すべきである。→ 5 4 3 2 1

その他 ( )

ii) 大学入試の出題用語は、入試の公平性を配慮して、高等学校で使用している歴史教科書の何割以上の教科書に収録されている用語に限定すべきと考えますか。2014年時点で使用されていたB教科書(世界史・日本史とも11種)でみた場合の用語数を参照に選択してください。

なお、現行の教科書では世界史Bが7種、日本史Bが8種となっていますが、用語集計データのある2014年度使用の教科書で表示しました。

## 当会提案の用語精選案とアンケートに関してよくあるご質問

Q1. 今回の「アンケート」と「歴史系用語精選の提案（第一次）」は、どのような関係にあるのですか？

「アンケート」は、用語精選それ自体の是非および精選の基準に関する意見調査です。個別の用語の取捨選択についての是非（つまり、「歴史系用語精選の提案（第一次）」の内容へのご意見）を問うものではありません。また、これは当会独自のものではなく、日本学術会議史学委員会高校歴史教育に関する分科会、日本歴史学協会歴史教育特別委員会との合同調査です。「歴史系用語精選の提案（第一次）」は、当会が独自に作成したもので、アンケートの参考資料としての役割をもちます。高校における歴史系科目の意義（→Q4）に照らして、2000語弱に用語を「精選」（≠単なる削減）した場合の案になります。

Q2. 「歴史系用語精選の提案（第一次）」の内容に対して疑問や意見があるのですが、どこに送ればいいですか。

この精選案はあくまでも「第一次案」で、2月末までのアンケート調査結果などを踏まえて年度末を目標に「最終案」を作成し、教科書会社・執筆者や大学入試関係者などに提言を行う予定です。それまで色々のご意見を参考にしたいので、記録などの都合上、お電話ではなく、氏名やお立場などを明記して、「アンケート」へのご回答とは別に、当会事務局まで郵便・メール（[kodairekikyo@gmail.com](mailto:kodairekikyo@gmail.com) ←@は半角）、もしくは専用のフォームから是非ともご意見をお寄せください。

Q3. 「アンケート」の結果や、今後作成される「歴史系用語精選の提案（最終案）」は、実際にどの程度の影響を持つのですか？

誤解されがちなのですが、そもそも高校歴史教科書に「載せるべき用語のリスト」は存在しません（したがって、当会の精選案は既存のリストから特定の用語を削除したものではありません）。歴史理解には歴史観がからむため、特定の団体・個人が強制力のある用語リストを作ることは「思想統制」にあたります。この精選案もあくまで民間団体が自主的に作ったものであり、その尊重を教科書会社・執筆者や大学入試関係者などに尊重を訴えるものです。今回、用語精選第一次案に対して想定以上の反響があり、多くの人が用語が過剰になっている高等学校の歴史教科書や大学入試の出題状況の問題点に気づいて、歴史を「暗記科目」でなく、「考える楽しみを味わえる科目」に代えるアイデアを出し合ってくださいることを期待しています。そのため、用語精選の基準の在り方を問うアンケートに協力くださるようお願いいたします。

**Q7.報道や巷の議論では、とくに日本史上の偉人が「教科書から消える」として話題を呼んでいますが、この点についての意見を聞かせてください。**

センセーショナルな第一報のおかげでこの試みの存在が広く知られるようになったことにまず感謝しています。しかし、繰り返しになります。当会が行った用語精選は大学入試で覚えていることを前提にしてよい「基礎用語」に関してであり、それ以外の用語が「発展用語」として教科書に収録されることを否定していません。また、当会の用語精選の提案が実現するかどうかは、教科書会社・執筆者や大学入試出題者などがこの提案を重視してくれるかどうかにかかりますので、ただちに「教科書から消える」かのような報道は誤解に基づくと思います。当会としては、精選案の作成が「日本史」の「人名」だけでなく、「世界史」の「概念」「制度」などの用語全体を対象としており、歴史系科目を「考える楽しみを味わえる科目」に転換するための試みであることに留意してほしいと感じています。坂本龍馬や上杉謙信といった特定の人名に焦点をあてるかたちで報道・議論が過熱化することで、議論の矮小化がなされることを危惧しています。再度強調しますが（→ Q 5）、精選案を作成したのは、歴史の暗記科目化を克服し、思考力育成型科目に転換するためであることをご理解ください。

**Q4.「歴史系用語精選の提案（第一次）」に漏れた用語は、授業で教えるはならないという意見なのでしょうか？また、教科書に載せてはならないと考えているのでしょうか？**

そうではありません。この案は、「教科書本文に記載し、入試で必須暗記事項として扱う基礎用語」を精選したものです。したがって、ここから漏れた用語は「発展用語」として教科書（たとえば資料、コラムや図表中）に収録することに反対しているわけではありません。たとえば、「戦国大名」を深く理解させようとした場合、「ご当地ネタ」（たとえば、山梨県では武田信玄）は多くの場合で有効ですが、それを十分に活用するためには、全国共通暗記事項は減らさねばならないと考えているわけです。別の言い方をすれば、「北海道や沖縄の高校生でも学ぶ日本史には何が必要なのか」、「高校生が日本という国で学ぶ「日本史」とは何なのか」を意識し、「全国の高校生が覚えるべき用語」を精選したのが、このリストということになります。

**Q5.「歴史系用語精選の提案（第一次）」はどのような目的で作成され、なぜ 2000 語弱としているのですか。**

目的については、「歴史系用語精選の提案（第一次）」の 3～4 ページに当会の見解を明記しておりますので、詳細はこちらをご覧ください。とくに強調しておきたい点は、歴史の暗記科目化を克服し、思考力育成型科目に転換することが目標であり、用語精選をそのために不可欠な手段（ただし、あくまでも手段）であると考えているということです。用語を 2000 語弱としたのは、高校教員の経験を参考にして、1 時間（50 分）で十分な説明をしながら教えられる用語を 15 個程度として見積もっているからです。世界史 B・日本史 B は建前上 140 時間で教える科目であり、実際は学校行事などで時間が減るため、多くて 2000 個と考えました。

**Q6.「歴史系用語精選の提案（第一次）」における用語精選の基準を教えてください。なぜ、坂本龍馬や上杉謙信は対象外となったのでしょうか。**

「歴史系用語精選の提案（第一次）」の 4～5 ページに当会の見解を明記しておりますので、精選の基準に関する詳細はこちらをご覧ください。なお、この案は、今後のアンケート結果などを参考にして、最終案を作る過程にありますので、現時点では個別の用語の判断理由については回答を差し控えさせていただきます。当会としては、歴史を「暗記科目」ではなく、「考える楽しみを味わえる科目」に代えるには、歴史の大きな流れを示す「概念用語」を中心として、それを説明するために必要な「事實用語」を優先的に残すことを考えています。また、小中学校でどこまで習っていたのかとか、歴史物語と事実としての歴史教育との違いにも注意を払いました。しかも、今回の用語精選は、入試で暗記していることを前提にしてよい「基礎用語」として精選したもので、除外した用語が「発展用語」として教科書に収録することを否定するものではありません。

# 高大連携歴史教育研究会のご案内

近年、高等学校・大学の歴史教育のあり方に対する社会的関心が高まってきています。そのなかで、高等学校と大学、大学内の学部間などの壁を超えた対話の場を求める声も、より一層大きくなっており、全国各地で高大連携により歴史教育の改善をめざす研究会が発足し、独自の取り組みがなされています。だからこそ、これらの試みの成果を広く共有し、またそれぞれが直面している課題を解決する方法を全国的に模索することも、重要な課題であると考えます。

以上の問題意識から、油井大三郎氏（現代表）をはじめ、大学・高校関係者 120 余名が呼びかけ人となり、2015 年 7 月 26 日に当会は創立されました。2017 年 8 月現在、400 名をこえる会員の参加を得ております。つきましては、より多くの関係者の皆様からのご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

**当会の主な活動** ★詳細はホームページで（下記 QR コード or 「高大連携歴史」で検索）

- ① 事務局を通じた会員への各種情報の発信
- ② 年一度の大会の実施（**第4回大会は、2018年7月28・29日@愛知県**）
- ③ 会報（電子版）の刊行・配信（随時配信）
- ④ 部会単位の ML による意見交換と、それにもとづく改革提言の実施

## 各部会のテーマ

- 部会 1：高等学校の世界史・日本史教科書改革と思考力育成型授業のあり方
- 部会 2：各地の教育実践や史料集作成などの交流とデータベース構築
- 部会 3：高等学校における歴史系新科目（歴史基礎など）のあり方
- 部会 4：大学入試・高校新テストなどの検討や歴史系出題のあり方
- 部会 5：大学における歴史系の教養教育や教員養成課程のあり方

## 連絡先・ご入会手続き

連絡先 [kodairekikyo@gmail.com](mailto:kodairekikyo@gmail.com)（事務局宛）

612-8522 京都市伏見区深草藤森 1 京都教育大学日本史学研究室

ホームページ <http://www.kodairen.u-ryukyu.ac.jp/index.html> 下記 QR コード

ブログ <http://kodairekikyo.blogspot.jp/>

ご入会 ホームページの「お問い合わせ」より、お願いいたします。

年会費 3,000 円 \*学生・院生は 1,500 円

